

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

埼玉県 越生町

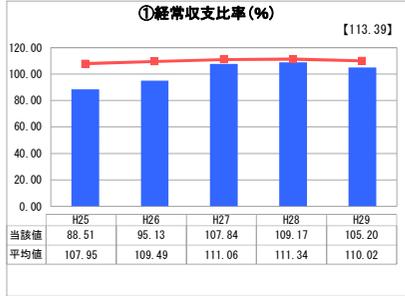
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	91.44	99.86	3,402	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,813	40.39	292.47
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,711	16.62	704.63

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

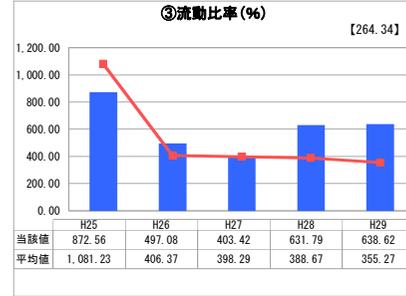
## 1. 経営の健全性・効率性



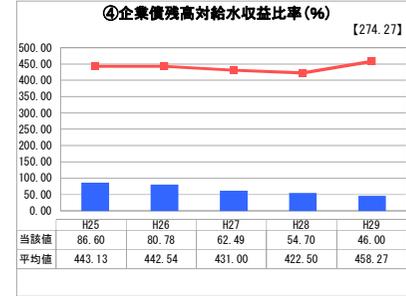
「経常損益」



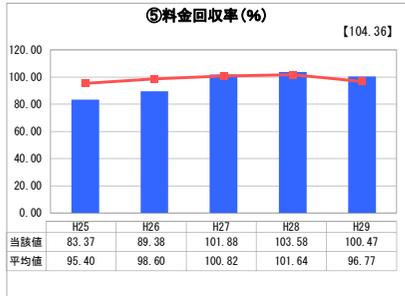
「累積欠損」



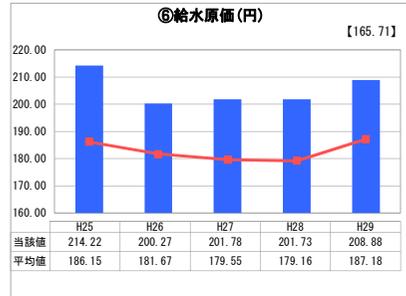
「支払能力」



「債務残高」



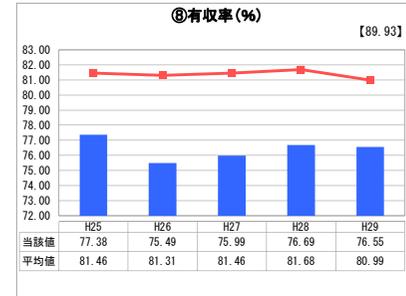
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

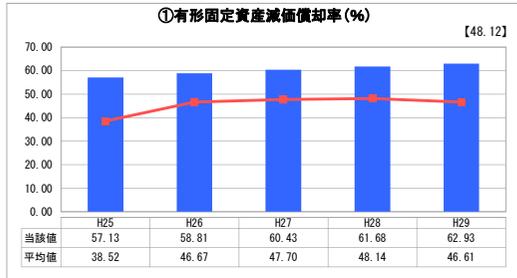


「施設の効率性」

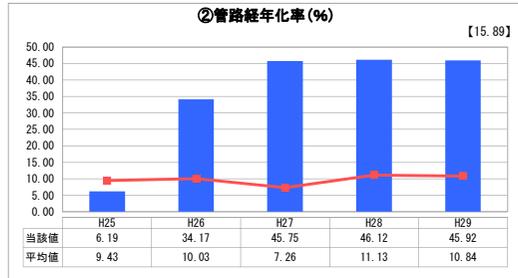


「供給した配水量の効率性」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

人口減少に伴う給水水量の減少が起因し、平成26年度まで赤字決算が続いていましたが、平成27年度に料金改定を行い、経常収支比率が100%を超え、累積欠損比率も平成26年度から皆減となりました。給水原価は類似団体平均値と比べると高額設定となりました。流動比率は前年に比べ増加したものの、類似団体では高い値となりました。企業債残高対給水収益比率は、必要な更新が先送りの状況であり、起債していないため減少傾向です。料金回収率は前年に引き続き100%を超え、今後も更に費用削減に努め効率性の向上を図ってまいります。施設利用率は、給水人口の減少により、減少傾向が続いていますが、類似団体と同水準の利用率となっています。一方、有収率の向上についても長年の懸案事項で、漏水調査を重点的に進め、有収率低下の原因をつきとめたいと考えております。

### 2. 老朽化の状況について

昨年に続き有形固定資産減価償却率及び管路経年化率が類似団体の平均より高く、特に管路経年化率は45%を超え、管路更新率も下落し更新の遅れが重要課題となっています。このような状況のなか、まず平成27年度に水道施設の耐震簡易診断を実施したところです。さらに平成30年度にアセットマネジメントを行っているところで、これを基に平成31年度に経営戦略を策定する予定です。この更新計画に基づき、老朽化対策を早急かつ効率的に実施します。

## 全体総括

水道事業収益の根幹を成す給水収益の減少は、人口減少に伴う給水量の減少によるものであり、累積赤字が膨らみ続けていたことから、平成27年度に17年ぶりの料金改定を行い、大幅な増収となりました。しかしながら、給水量が増加する見込みがない現状では、給水収益は年々減少していくことが予想されます。これに合わせて支出については、浄水方法等を含めた根本的な運営の見直しを図り、経費削減を推進したいと考えています。また、施設の更新については、耐用年数を超える施設や管路の増加が顕著なため、優先箇所を特定し、経営戦略を基に計画的かつ効率的な対策を推進します。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。